

# 郷土資料館だより

Vol.31. No.2

2008.12.1

## 第12回富士・沼津・三島3市博物館共同企画展「あそび歳時記」

●開催期間 平成20年12月14日(日)～平成21年2月22日(日)

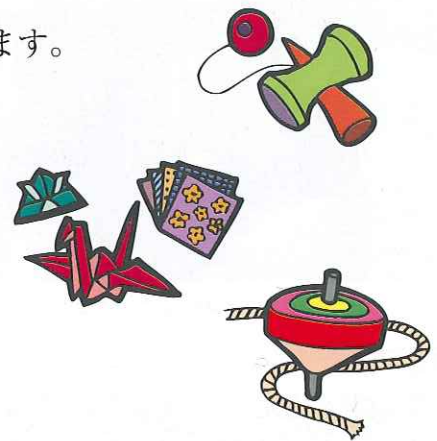
今回の企画展は、子どもの遊びをテーマに季節の遊びや伝統の遊びを紹介します。近年コンピュータや電子玩具の発達により、昔ながらの遊びの形態が失われつつありますが、四季折々の日本の風土で培われてきた伝統的な遊びや簡単な道具を使った遊びは、子どもの遊びの原点といっても過言ではありません。これらを紹介しながら、忘れられつつある子どもの遊びについて振り返ってみたいと思います。

また同時に、子どもの遊びをテーマにした芸術作品（三四呂人形など）や各館所蔵の遊びに関する逸品、日本雪だるまの会のご協力により静岡県内の代表的な郷土玩具を紹介します。

子どもから大人まで幅広く楽しんでいただきたいと思います。

### 展示内容

- I 季節と伝統の遊び(年中行事など)
- II 子どもの遊び 屋内・屋外
- III 子どもの遊びをテーマにした作品
- IV 遊びに人生あり 各館の逸品
- V 静岡県内の郷土玩具



## 日本文学資料館オープン

### ●場 所 生涯学習センター 2階

11月1日(土)に生涯学習センター2階に日本文学資料館が開設されました。これは、日本歌人クラブ顧問で元日本大学教授、また文芸三島編集委員長でもあります藤岡武雄氏が、三島市に寄贈してくださいました貴重な文学資料と蔵書を、多くの方にご覧になっていただくことを目的に開設しました。

展示資料は、藤岡氏が歌人・斎藤茂吉の研究における第一人者であることから、斎藤茂吉に関する自筆書や資料・写真などが中心となりますが、その他の文学資料についても逐次展示していく予定です。



藤岡武雄氏



オープニングセレモニー



ギャラリートーク

### 展示内容

開館記念として「茂吉をめぐる歌人たち」と題し、藤岡氏から寄贈された斎藤茂吉と近代歌人を中心とした資料の展示を行います。

日本近代短歌の代表的歌人として知られる斎藤茂吉は、歌集、随筆、歌論、研究、評釈はもとより、本業の医学の面においても優れた研究論文を遺しています。今回の展示では、茂吉の幅広い業績を、茂吉をめぐる歌人たちとの書簡類などを通して紹介します。

主な展示資料は以下のとおりです。

- ・ 茂吉自筆書簡・はがき
- ・ 茂吉自筆風絵  
茂吉の少年時代に描いたものです。
- ・ 茂吉自筆短冊・色紙

「うみのかぜ山こえてふく国内は蜜柑の花はすでに咲くとぞ」(短冊)

「春の雲かたよりゆきしひるつかた遠き真菰に雁しづまりぬ」(色紙)

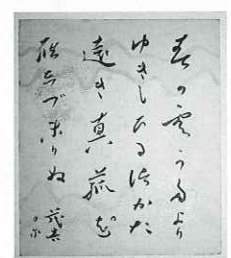
- ・ 『アララギ』(昭和4年12月号) 茂吉編集原稿  
斎藤茂吉をはじめ、中村憲吉・土屋文明・岡麓・今井邦子など、アララギ派を代表する歌人の自筆原稿です。



斎藤茂吉 (1882~1953)



『阿羅々木 (アララギ)』



茂吉色紙

かんちょうろうか かい  
・観潮楼歌会詠草稿（複製）

森鷗外の居宅（東京都文京区千駄木）は「観潮楼」と呼ばれ、明治文壇の社交場でした。明治40年頃にはここで歌会も行われ、与謝野鉄幹、伊藤左千夫、佐佐木信綱、平野万理、斎藤茂吉、上田敏、石川啄木などの文人が集いました。本資料はその際に詠まれた歌が記された貴重な原稿（複製）です。

また、このほか館外廊下側スペースには50点あまりの写真パネルを使って茂吉の生涯を紹介します。



茂吉歌集（『赤光』ほか）



東京根岸短歌会（明治44年）



茂吉渡欧送別会（大正10年9月）

## ふるさと歴史文学コーナー（本町タワー4階）

### 「五所平之助と三島」開催中

●開催期間 平成20年10月16日(木)～平成21年1月27日(火)[予定]

映画監督そして俳人としても知られている五所平之助の企画展。「伊豆の踊り子」の初映画化や、「煙突の見える場所」、「たけくらべ」等たくさんの代表作を持ちます。後年は30年近く三島に住み、映画「わが街三島」の制作をはじめ「三島市民サロン」、「文芸三島」、「水上プロムナード委員長」など、三島の文化事業に尽力されました。また、俳人としても知られ、俳号を五所亭とし、句集や随筆集も出版されています。

この企画展では、図書館の同企画展と併せ、関守敏氏の所蔵する貴重な五所氏の映画資料や自筆色紙・短冊、写真等の数々を展示し、生前の氏の業績を広く紹介します。また併せて三島を代表する文人・大岡博氏、小出正吾氏についても紹介します。



五所氏「わが街三島」関連資料



五所氏 映画ポスター・台本・ビデオなど



大岡氏 資料



小出氏 資料

## 企画展「三島を襲った災害」報告

●開催期間 平成20年9月6日(土)～平成20年11月30日(日)

本年は、昭和33年9月26日に未曾有の大惨事<sup>みぞう だいさんじ</sup>を引き起こした狩野川台風からちょうど50年を迎えました。これを機に狩野川流域の市町では様々なイベントが行われましたが、当館においても、過去の教訓を生かしつつ、防災に対する意識を高めてもらうという意味も含めて、狩野川台風をはじめとする災害史展を企画開催しました。

狩野川台風については狩野川資料館や静岡県東部地域防災局の協力もあり、当時の被災状況が記録された写真パネルなどを展示したところ、当時を知る方々は被害の凄まじさや悲惨さを口々にお話されていました。また、狩野川台風以外に未だ記憶に新しい平成2年と同10年の水害についても写真パネルで紹介しました。さらに水害以外にも、安政元年東海地震の様子や大正12年の関東大震災、昭和5年の北伊豆地震の被害と復興状況、貞享2年丑年の火災などを紹介しました。そして今後の防災について関心を高めてもらうべく、洪水避難地図（ハザードマップ）や防災ラジオ、非常用グッズなども併せて展示で紹介しました。



展示風景



左 同



ギャラリートークの様子

## 企画展関連講演会「狩野川台風を語る－被災から50年－」報告

●開催日 平成20年9月20日(土) 13:30～15:00

●講師 谷口隆太氏（狩野川資料館ボランティア）  
小泉安三氏（郷土史家）

●参加者 59名

●会場 本町プラザ第1・2会議室

先生方には実体験を踏まえた貴重なお話をしていただき、当時の悲惨な状況を拝聴<sup>はいちょう</sup>することができました。

参加者からも「異常気象で大雨洪水が頻発している時、よいタイミングで企画された講演会で、とても興味深く聞くことができました」、「台風の恐ろしさを身に沁みて感じました。映像や資料ももちろんですが、話を聞いてより強く感じました。TVやラジオの中心（東京）の情報も大切ですが、地方の方の昔の話は残しておくべきだと思います」、「映像がとても衝撃的でした。とても勉強になりました」など大変好評でした。



谷口氏



小泉氏



会場の様子

## 郷土教室「わらじ作りと昔の道具のおはなし」報告

- 開催日 平成20年8月9日(土) 10:00～ 13:30～
- 講師 掛井完氏(元箱根の里指導員)・館職員・博物館実習生(土屋瑛美さん、山下達也さん)
- 参加者 10:00～9名 13:30～15名
- 会場 当館会議室、1階企画展示室

「昔の道具のおはなし」では、学芸員と博物館実習生がイラスト等を活用しながら説明し、加えて子どもたちに展示品に触れる機会を織り交ぜました。こどもたちは、現在使うことのない道具に直接触れ、飽きることなく興味深げに見入る姿が多く見られました。

「わらじ作り」では、はじめて作る子どもが殆どだったので、少し時間が足りず、片足だけの制作に終る結果となりました。それでも、掛井先生のご指導のもと、子どもたちが和気藹々<sup>わきあいあい</sup>と楽しく且つ真剣に取り組む姿が大変印象的でした。



わらじ作り



昔の道具のおはなし



左 同



わらじ作り

## 学芸員の一品

～弁当～

江戸時代に昼食が習慣化され、庶民の間でも弁当が普及しました。それに伴い場面と用途に応じた多種多様な弁当箱がつくられるようになりました。また、弁当に関しての本が多く出版され、目的に応じた弁当の料理法や詰め方の工夫などが詳しく紹介されるようになりました。

現代のように交通機関の発達していなかった時代、人々はとにかく歩いたので必要塩分量も多く、とても塩辛い味付けだったようです。

さげじゅうばこ  
～提重箱～

天下泰平の江戸時代、弁当はより変化に富み、広範で豊富な文化となって広まりました。重箱を取っ手のついた台の上へのせた提重箱は花見弁当や芝居弁当として遊山に使われ、酒器や銘々皿と一緒に収納することができます。機能性を備え、かつ江戸の野遊びの優雅さも感じられる一品です。

博物館実習生の尾朝真理子さんと大塔崇志さんに収蔵資料の中から一品を選び展示していただきました。



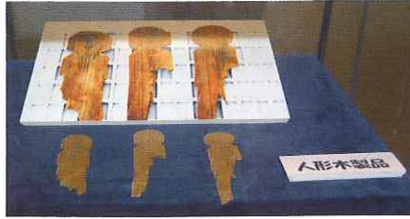
## ふるさと歴史文学コーナー（本町タワー4階） 「古代の輸送路～埋没河川を求めて～」報告

●開催期間 平成20年5月29日(木)～平成20年10月14日(火)

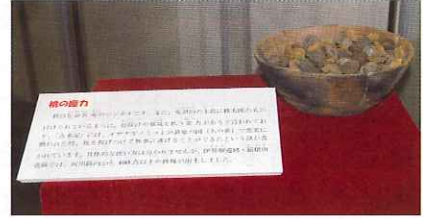
三島市安久にある伊勢堰遺跡・箱根田遺跡の発掘調査で検出した河川遺物や出土遺物を紹介しました。発掘調査により奈良・平安時代には遺跡周辺に河川が存在していたことがわかりました。このことから御殿川や大場川、狩野川を經由して駿河湾に繋がる水運ネットワークがあったことが考えられます。また、様々な物資とともに集落に「疫神・鬼神」が入り込まないように祭祀を行った際に用いた人形や霊力があるとされる桃の種も展示しました。



展示風景



人形



桃の種

## 寄贈資料紹介

平成20年8月から10月上旬に、次の方々からたくさんのご寄贈の協力をいただきました。ありがとうございました。(50音順・敬称略)

青木千之	三島市	液用マス	1点
		ハカリ	1点
		オヒツ	1点
		ジョウゴ	1点
		ジョウゴダイ	1点
小林 隆	三島市	ノーへ節レコード	1点
谷川静枝	三島市	写真	5点
水野秀和	沼津市	台風22号伊豆地方災害殉難者名簿	1点
		静岡県佛会報	1点
		玄峰老師書等	1括



ノーへ節レコード



写 真

### 【編集後記】

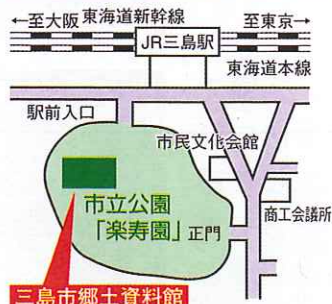
10、11月は大勢の小学生の見学がありました。一生懸命道具の使い方や絵をメモしたり、道具に触って勉強していました。11月にオープンした日本文学資料館も、多くの方にご活用いただければ幸いです。

### 利用案内

●休館日  
毎週月曜日  
(祝日の際は翌日)  
12月27日～1月2日

●開館時間  
午前9時～午後5時  
(4/1～10/31)  
午前9時～午後4時30分  
(11/1～3/31)

●入館無料  
(ただし、楽寿園入園の際に有料)



●三島駅(南口)から徒歩5分。  
市立公園楽寿園内

郷土資料館だより vol.31 No.2 (第92号)

発行日 平成20年(2008)12月1日  
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館  
〒411-0036  
静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内  
TEL 055-971-8228  
FAX 055-981-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp  
URL: http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/  
発行 三島市教育委員会